

## けがの危険予測及び回避ができる子どもの育成

～「防ぐことができるけが」に特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動を通して～

糸島市立南風小学校  
養護教諭 中原 さくら

こんな手立てによって…

「防ぐことができるけが」に特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動を行う。

こんな成果があった！

けがの危険予測及び回避が正しくできる子どもを育成したことで、「防ぐことができるけが」が減り、結果的にけがの来室数を減らすことができた。

### 1 考えた

1学期のけがの来室状況を調べたところ、検証学級の来室数が突出して多く、けがの理由の半数以上が「防ぐことができるけが」であった。また、全校平均を見ても、半数に迫る数値であり、検証学級だけではなく学校全体を通しての子どもの課題であることが分かった。

そこで、本研究では「防ぐことができるけが」に特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動の在り方を究明することが、けがの危険予測及び回避が正しくできる子どもを育成する上で有効であると考えた。

### 2 やって見た

検証学級における集団指導では、実証Ⅰで防ぐことができるけがをしないための3つの約束を子どもと確認し、実証Ⅱでけがの危険予測及び回避について考える活動を行った。

全校の子どもへ向けた個別指導では、防ぐことができるけがで来室した子どもに対して振り返りシートやけがの絵カードを用いて、どうすればけがを防ぐことができるのか自身のけがを振り返る活動を行った。

啓発活動では、全校の課題をもとに、掲示物やほけんだよりでけがについての内容を充実させたり、保健委員会を通してけがの防止についての取り組みを行ったりした。

### 3 成果があった！

「防ぐことができるけが」に特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動を行ったことで、けがの危険予測及び回避が正しくできる子どもの育成に繋がった。また、それにより防ぐことができるけがが減り、結果的にけがの来室数を減らすことができた。

## <目次>

# けがの危険予測及び回避ができる子どもの育成

～「防ぐことができるけが」に特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動を通して～

1	主題設定の理由	3
	(1) 現代社会の要請から	3
	(2) けがによる保健室来室の実態と課題から	3
	(3) 全校の子どもたちの傾向については	4
2	主題の意味	5
	(1) 主題の意味	5
	(2) 副主題の意味	5
3	研究の目標	6
4	研究の構想	6
	(1) 研究の仮説	6
	(2) 研究の内容	6
	(3) 検証内容と方法	8
	(4) 研究構想図	8
5	研究の実際	9
	ア 集団指導	9
	イ 個別指導	16
	ウ 啓発活動	19
6	全体考察	24
	(1) 検証学級の子どもの変容	24
	(2) 全校の子どもの変容	25
7	成果と課題	
	(1) 成果	25
	(2) 課題	25
	<参考文献>	25

## けがの危険予測及び回避ができる子どもの育成

～「防ぐことができるけが」に特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動を通して～

糸島市立南風小学校  
養護教諭 中原 さくら

### 1 主題設定の理由

#### (1) 現代社会の要請から

近年、事件・事故・災害など、様々な危険が子どもを取り巻いている。その中でも、日常の大半を過ごす学校生活での安全に対する懸念が広まっており、子どもたちの安全は校長を中心としてすべての教師が一丸となって保障していかなければならない。

平成31年「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」（文部科学省）では、「生きる力」を育むことを目指す学校教育の目標を着実に実現していくためには、学校における組織的な安全管理の一層の充実を図ることや、安全で安心な学校施設等を整備するとともに、児童生徒等がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成する安全教育を一層推進することが不可欠である。」と述べられている。その中で安全教育の目標として、「日常生活において、危険な状況を適切に判断し、回避するために最善を尽くそうとする『主体的に行動する態度』を育成するとともに、危険に際して自らの命を守り抜くために『自助』、自らが進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献できる力を身に付ける『共助、公助』の視点からの安全教育を推進することが重要である。」と述べられている。

これらのことから、学校管理下における安全管理を教師が適切かつ確実に執り行うことはもちろんのこと、子どもは守られるべき対象であることにととまらず、子どもが危険を予測し、回避するための能力を養い、自らの命を守り抜く力が必要であると考え。

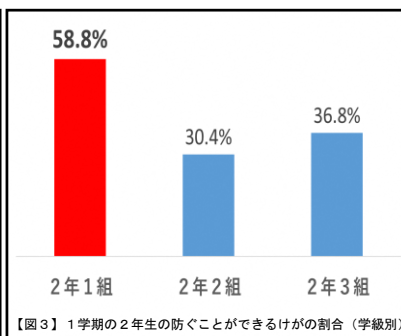
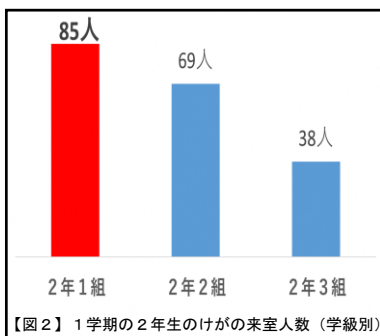
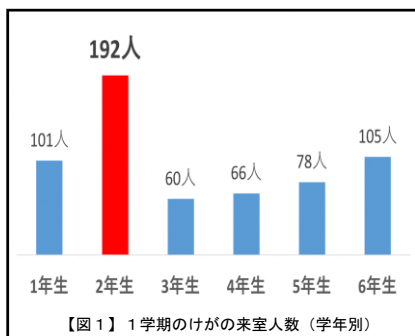
本研究では、集団指導・個別指導・啓発活動の3方向からアプローチをし、けがの危険予測及び回避ができる子どもを育成することを目標としている。この研究を行うことによって、全校の子どもがけがについて意識するようになり、「けがをしないように気をつけよう」という意識を持つことができると考える。そして、「防ぐことができるけが」を減らすことができると考え、本主題を設定した。

#### (2) けがによる保健室来室の実態と課題から

##### ①けがによる保健室来室状況について

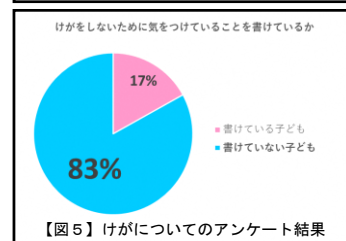
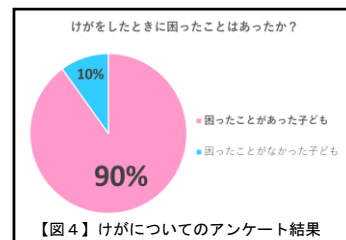
1学期のけがの来室状況を学年別でみると、2年生が突出して多いことが分かる（図1）。その中でも、最も来室数が多い学級は2年1組（以下「本学級」）であった（図2）。

図3は、2年生の防ぐことができるけがで来室した子どもの割合を表したもので、ここでも、本学級が突出して割合が大きいことが分かる。このことから本学級に対して集団指導を行うことで、現状を改善することができればと強く感じた。



## ②本学級の実態調査について

1学期末に、本学級29名においてけがについてのアンケートを実施した。「けがをしたときに困ったことはあったか？」という質問では、困ったことがあると答えた子どもは90%であった（図4）。その理由として「痛かった」や「遊びや体育ができなくなった」等が挙げられた。しかし、「けがをしないために気をつけていることはあるか？」という質問では、ほとんどの子どもが「ない」と答えており、また、「ある」と答えた子どもの中でも具体的に書けていた子どもは少なく、結果的に全体の83%の子どもが書くことができなかった（図5）。

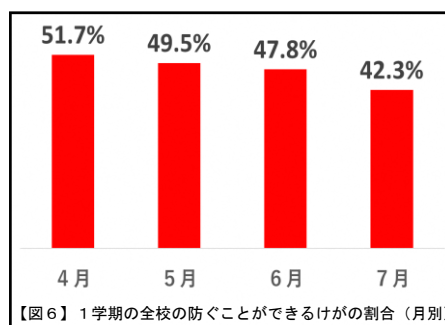


このことから、本学級の子どものほとんどが、けがをした際の困り感を経験しているが、けがをしないために気をつけていることがある子どもが少ないために、最多来室数及び防ぐことができるけがでの来室に繋がっているのではないかと予想された。

①②のことから、検証学級を本学級とし、「防ぐことができるけが」を認識させ集団指導を行うことは、けがの危険予測及び回避ができる子どもを育てることができると考え、本主題を設定した。

## (3) 全校の子どもたちの傾向については

1学期のけがで保健室に来室した総人数は602人であった。これは昨年度よりも低い数字である。しかし、「防ぐことができるけが」という視点で見ると、4月が51.7%、5月が49.5%、6月が47.8%、7月が42.3%で、平均すると1学期は47.5%と半数近くが防ぐことができるけがでの来室であった（図6）。このことから、本学級だけではなく、全校的な子どもたちの課題でもあったと感じた。



そこで、来室時の個別指導やけがについての積極的な啓発活動を充実させることで、全校の子どもにけがについての意識を持たせ、けがの危険予測及び回避をできる子どもを育てることは大変意義深いと考え、本主題を設定した。

## 2 主題の意味

### (1) 主題の意味

ア「危険を予測する」とは

けがをする危険がある場面において危険の存在に気づき、その後どのような結果になるか予測することである。

本校の来室状況やアンケート結果から、子どもは、そもそも「けがは防ぐことができる」という認識が薄いように感じる。そこで、けがをする前に危険に気づくことができるということ、また学校生活においてけがをする可能性がある場所や場面を提示することで、危険が存在する中で、その後どのようなけがにつながるのか予測できる力を身につけることができると考える。

イ「危険を回避する」とは

危険予測に基づき、的確に意思決定をし、より安全な行動を選択することである。

危険を予測するだけではけがを防ぐことはできない。危険が存在するなかで、どのような行動をとればけがをしないで済むのか、自らが考え、最善な行動をとる力が必要である。今回の集団指導においては、日常に起こりうる危険の場面絵をいくつか使用し、回避するための行動を考えさせる。それにより、いざ危険にさらされた時も、的確に判断し安全な行動を選択することができる力が身につくと考える。

### (2) 副主題の意味

「防ぐことができるけが」とは

不注意やふざけることによって起きたけがのことである。そのことを踏まえ、以下の3点を防ぐことができるけがと設定した。

- ①走ってはいけないところで走ったために起きたけが
- ②周りをよく見ていなかったために起きたけが
- ③ふざけたり、わざと友達を叩いたり蹴ったりしたために起きたけが

日々のけがでの来室の中で、表1に示している事例のように、「これは防ぐことができたのではないか」と感じる場面が幾度となくあった。

【表1】子どものけがの事例と要因分析

	子どものけがの事例	養護教諭が感じたこと
①	●「走って登校していたら、転んですりむいた」 ●「廊下を走って、すべって転んでねんざした」	○通学路や廊下は走ってはいけない決まりである。走らなければ、防ぐことができたのに…
②	●「曲がり角で、人とぶつかり肩を打撲した」 ●「雑巾がけをしていて、棚にぶつかり頭を打撲した」	○前をよく見ていれば、危険に気づき、防ぐことができたのに…
③	●「遊具の高いところからジャンプして、転んですりむいた」 ●「友達と口論になり、足を蹴られて打撲した」	○遊具を正しく使うことや、わざと友達を蹴ったりしなければ、防ぐことができたのに…

このようなけがの事例から、防ぐことができるけがの指導において具体化かつ簡略化して提示することで、子どもも危険場面で思い出して、意識することができるのではないかと考える。

### 3 研究の目標

けがの危険予測及び回避ができる子どもを育てるために、防ぐことができるけがに特化した、検証学級における集団指導及び全校の子どもへ向けた個別指導・啓発活動の在り方を究明する。

### 4 研究の構想

#### (1) 研究の仮説

検証学級及び全校の子どもへ向けて次の3方途からの工夫を行えば、危険予測及び回避ができる子どもを育てることができるであろう。

ア 集団指導（検証学級）                      イ 個別指導（全校）                      ウ 啓発活動（全校）

#### (2) 研究の内容

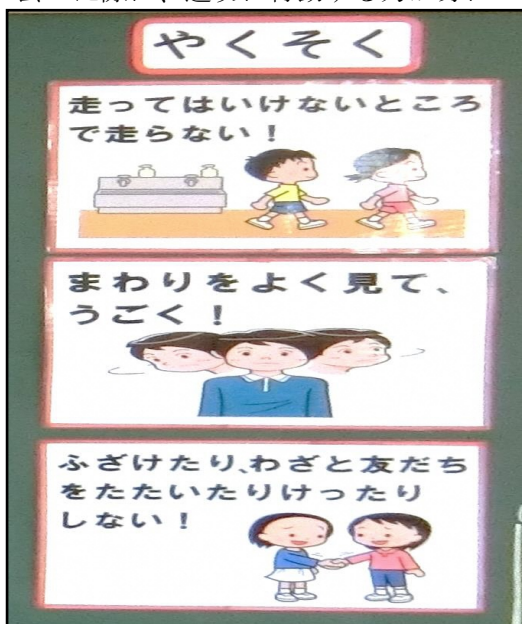
ア 集団指導【実証Ⅰ、Ⅱ】

- ① 本学級のけがの様子を数値的に提示し、本学級の課題に気づかせる。【Ⅰ、Ⅱ】
- ② 防ぐことができるけがをしないための約束を、約束カードを使用し確認させる。【Ⅰ】
- ③ けがの危険場面絵を用いて、危険予測及び回避について考えさせる。【Ⅱ】

検証学級は低学年のため、定着には繰り返し指導する必要がある。そこで、集団指導は、段階的・継続的に2回実施する。

実証Ⅰでは、事前に集計した本学級のけがの来室数を数値化することで、本学級の課題を確認させる。その上で、これから意識して守っていかなければならないことを、分かりやすいイラストを用いた約束カードを使用し、子どもと約束する（図7）。

実証Ⅱでは、前回の指導から本学級がどのように変容したか比較し、今後のさらなる課題を確認させる。このことは、子どもの興味・関心・意欲を向上させる手立てとして有効であると考えられる。また、本学級の現在の課題から、実際にけがが発生している校舎内の写真を用いたけがの危険場面絵を提示し、けがの危険予測及び回避について学習プリントを用いて考えさせる（図8）。このことにより、これからの学校生活において実際にそのような場面に出会った際に、適切に行動する力が身につくと考える。



【図7】 約束カード



【図8】 けがの危険場面絵を用いた学習プリント



イ 個別指導

- ① 防ぐことができたけがで来室した子どもに対し「振り返りシート」を用いて、自身のけがについて振り返らせる（図9）。
- ② 発達段階に応じて、けがの絵カードを提示し、理解させる（図10）。

振り返りシートを用いて、「どうしてけがをしたのか」を子どもと養護教諭と一緒に振り返る。その結果、自分のけがを防ぐことができるけがであったことを理解させ、改善方法について考えさせる。このことにより、けがは防ぐことができるという認識を持たせることができ、今後同じような状況下になった際、適切な行動をとり、安全に生活することができると思う。さらに、発達段階に応じて、けがの絵カードを使用することで、イメージを持たせやすくすることができると思う。また、指導後に養護教諭が子どもの変容を評価できるように、裏面に評価シートを設けた。

**じぶんのけがをふりかえろう**  
 ( )ねん( )くみ なまえ( )

どうしてけがをしたのでしょうか？

**じぶんのこうど**  
 はしってはいけないところではしった・まわりをよくみていなかった・ふざけていた  
 そのた( )

**まわりのかんきょ**  
 はしってはいけないところだった・ひとやものがたくさんあった・まわりもふざけていた  
 そのた( )

ふせぐことができるけがだとおもいますか？(不注意やふざけておきたけが)  
 はい ・ しかたがない ・ わからない

↓

どうすれば、けがをふせぐことができたのでしょうか？

**表面**  
**振り返りシート**  
 (養護教諭と一緒に振り返り、  
 子どもが記入をする。)

振り返りの時間	当日(手当後・休憩時間・ )	翌日以降( )
評価	①けがの原因を明確にできたか。	
	②危険回避の方法を考えることができたか。	
～指導内容など～		

**裏面**  
**評価シート**  
 (子どもへの指導後、  
 養護教諭が記入をする。)

【図9】 振り返りシート及び裏面の評価シート



【図10】 けがの絵カード

## ウ 啓発活動

- ① 掲示物やほけんだよりにおいて、けがに関する内容を充実させる。
- ② 保健委員会を通して、けがの防止についての取組を行う。

掲示物やほけんだよりを通して、本校のけがの様子や防ぐことができるけがについて積極的に提示することで、けがについての意識を向上させる。また、掲示物を見る機会が無い子どももいるので、全校の子どもに配布するほけんだよりと内容を類似させながら作成する。作成に至っては、イラストや写真、文字の大きさなど視覚的な配慮をする。

保健委員会においては、2学期当初の委員会活動の際に、1学期の本校のけがにおける課題を子どもに提示し、話し合い活動を設け、以下の2点を取り組むことが決まった。

- ・1年生に安全な廊下歩行の仕方について教えに行く。
- ・週1回、本校の1週間のけがの様子や、けがの防止について、放送で呼びかける。

保健委員会を通してけがについて啓発することで、子どもの興味・関心をもたせることができると思う。

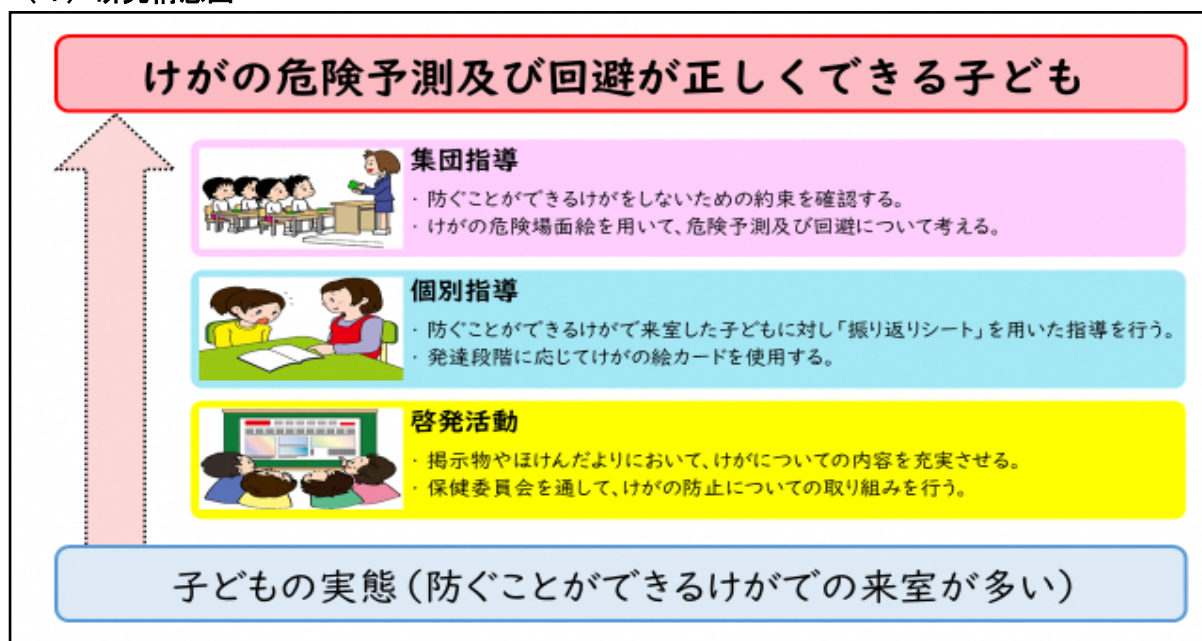
### (3) 検証内容と方法

取り組み	評価規準	方法
集団指導で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防ぐことができるけがをしないための約束を意識することができる。</li> <li>・危険は予測及び回避できることを知り、それについて考えることができる。</li> </ul>	事前事事後アンケート 学習プリント がんばりカード 行動観察
個別指導で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のけがを振り返り、どうすれば防ぐことができたのか考えることができる。</li> </ul>	振り返りシート及び裏面の評価シート
啓発活動で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがや防ぐことができるけがへの意識を持たせ、興味・関心や知識を得ることができる。</li> </ul>	行動観察



結果的に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防ぐことができるけがでの来室を減らし、けがの来室数を減らすことができる。</li> </ul>	けがの来室状況
------	---	---------

### (4) 研究構想図





## 5. 研究の実際

### ア. 集団指導（検証学級における学級活動Ⅱの時間に実施する指導）

#### 【実証Ⅰ】 20分間のミニ指導

##### （1）検証学級と時期

第2学年1組 令和元年9月上旬

##### （2）指導のねらい

- ①自分の学級の1学期のけがの様子から、けがの多くを防ぐことができるけがであるという課題に気づく。
- ②防ぐことができるけがをしないための約束を確認し、約束を意識して生活しようとする意欲を持つ。

##### （3）指導の実際

〈導入段階〉

1学期の全校のけがの様子をランキング表で提示し、本学級が突出してけがが多いことに気づかせる。

最初に、ランキング表のみを提示し、これが何のランキングか質問した。子どもたちからは「分からない」や「給食完食のクラス！」等の発言が見られたが、けがについての発言はなかった。その後、1学期のけがが多い学年のランキング表であることを伝えたところ、子どもたちは「えー！」「1年生よりも多いの！」等、驚いている様子であった（図11）。

ケガが多い学年は？		
1	2年生	-192人
2	6年生	-105人
3	1年生	-101人

2年1組 85人

【図11】ランキング表による提示

次に、ランキングの3位から順にけがの来室人数を提示していき、1位の2年生が突出して多いこと、さらにはその中でも本学級のけがの人数が一番多いことを伝えたところ、「うそやん！」「こんなに多いの！」等、子どもたちからどよめきが起った。

この1学期の結果をもとに、「2学期はけがをして痛い思いをする人を減らすために、今日はみなさんにけがをしないためにどうしたら良いか一緒に考えましょう。」と課題解決への意欲づけをし、展開へ繋いだ。

〈展開段階〉

本学級のけがの事例を紹介し、けがの多くを防ぐことができるけがであることに気づかせる。

1. 3つのけがの場面を使用し、このあとどのような危険が起こりそうか予想する活動

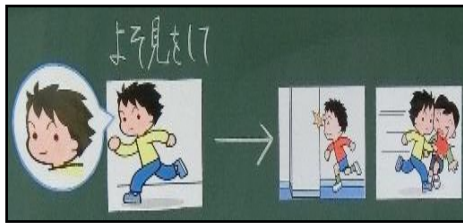
##### ①1つめのけがの場面



【図12】廊下を走ったことによるけが

T: 廊下を走っていますが、廊下を走るとどうなる？  
C: すべってこける！  
T: そうだね、特に雨の日は滑りやすいからこけるよね。  
ほかに？  
C: . . .  
T: 廊下は運動場みたいに広くないので、こんな風に曲がり角で人にぶつかってしまうかもしれないよ。  
C: あー！ぶつかったことある！

② 2つめのけがの場面



【図 13 よそ見をしたことによるけが】

T: これは何をしているところかな?  
 C: 走ってる!  
 T: そうだね、でもよく見ると・・・  
 C: あ！よそ見してる！  
 T: そうです。よそ見しているとどうなる？  
 C: 人にぶつかる！  
 T: ぶつかるのは人だけかな？  
 C: 机とか棚にぶつかる！  
 T: そうだね。人だけじゃなくて、物にもぶつかります。

③ 3つめのけがの場面



【図 14 ふざけたり、わざと友達をたたいたりけったりしたことによるけが】

T: あとは、残念なことに、ふざけて自分や周りの友達がけがしてしまうというけがも多かったです。  
 C: あー、確かにあるかも・・・  
 T: そして、わざと友達をたたいたりけったりしてけがに繋がったという人も多かったです。  
 C: あー・・・

そして、この3つの場面のけがを経験したことがあるか問うたところ、ほとんどの子どもが「ある！」と答えた。しかし、これらのけがはどのようなけがであるか問うたところ、回答する子どもはおらず、こちらから、「防ぐことができるけが」であることを提示した。

2. 3つのけがの場面を使用し、防ぐことができるけがであることの確認

① 1つめのけがの場面

T: 廊下って走って良かったのかな？  
 C: だめ！  
 T: そうだね！このけがは、廊下は歩くというルールをきちんと守っていれば起きなかったけがだよ。廊下以外に走ってはいけない場所知ってる？  
 C: 教室、階段、カラータイル、図書室・・・  
 T: そうだね。学校には走ってはいけないところがたくさんあるはずだよ。あとは、通学路も走ってはいけないところじゃないかな？  
 C: あー、登校班の人に歩いてよく言われる。  
 T: 通学路は、車や自転車が多いので、走ってはいけない決まりになっています。また、ランドセルなどの荷物を持っているので、走ってこけてしまうと、手をつくことができずに、大けがに繋がってしまうこともあります。



【図 15 走ってはいけない場所の確認】

② 2つめのけがの場面

T: このけがは何が良くなかったのかな？  
 C: よそ見をしたこと！  
 T: そうだね。よそ見をして、周りをよく見ていなかったことが良くなかったよね。よそ見をせずに、周りをきちんと見ていれば、物や人にすぐに気がつくことができ、ぶつかることはありません。

③ 3つめのけがの場面

T: このけがは何が良くなかったのかな？  
 C: ふざけていたこと！わざとたたいたこと！  
 T: そうだね。この絵でいうと、自分だけじゃなくて、周りの友達も巻き込んでいます。また、冗談のつもりで友達をたたいたりけったりすることもあるかもしれませんが、友達を傷つけることは絶対にやめましょう。もし、どうしてもイライラして友達を傷つけそうなときは、グッとこらえて、まずは先生に相談してください。話を聞いてもらえると、イライラが少し治まるはずです。

〈終末段階〉

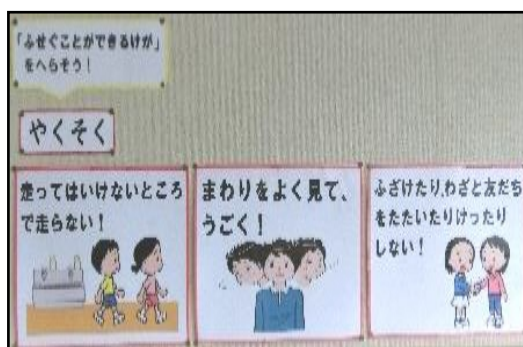
防ぐことができるけがをしないための約束を提示し、子どもと約束を交わし意識させる。

子どもたちの実践への意欲を高めるために

- ・「走ってはいけないところで走らない」
- ・「まわりをよく見てうごく」
- ・「ふざけたり、わざと友だちをたたいたりけったりしない」の3つの約束を子どもたちと確かめた。

さらに、授業後も子どもがいつでも確認できるように、この3つの約束をカードにし、教室に掲示した。

また、防ぐことができるけがが起こった際の、担任や養護教諭による個別指導に生かした。

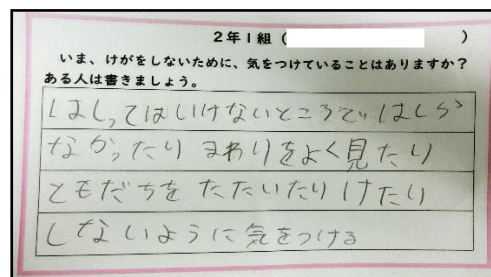


【図 16 教室に掲示した約束カード】

**(4) 【実証 I】 終了後の子どもの定着**

指導からしばらく経った 10 月下旬に、「けがをしないために気をつけていることはあるか？」という問いの自由記述アンケートを本学級において実施した (29 名) (図 17)。

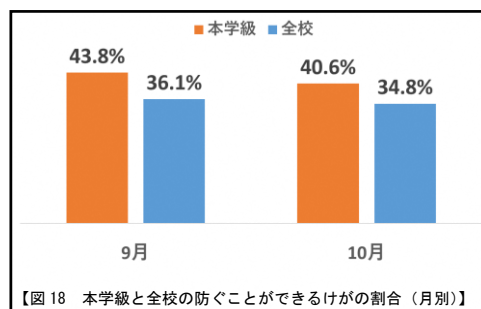
約束 1 に関する内容を書けている	13 人
約束 2 に関する内容を書けている	9 人
約束 3 に関する内容を書けている	4 人
3つの約束に関する内容を全て書けている	2 人
具体的でない、無回答	11 人



【図 17 3つの約束全て書けた子どもの回答】

1 学期末に実施したアンケートでは、書くことができた子どもはわずか 17%であったが、上記の結果から、今回は 62%の子どもが指導で教わった内容を書いていた。しかし、3つの約束を全て書けている子どもが少ないことや、38%の子どもが回答できていないことから、学級全体への定着へは至っていなかった。

図 18 は 9、10 月の防ぐことができるけがで来室した子どもの割合を本学級と全校とで比較したものである。本学級の 1 学期 58.8%という数値を考えると、9 月 43.8%、10 月 40.6%は本学級としては成果が出ていると考えられる。しかし、全校平均から見るとまだ多く、さらなる指導が必要であると考えた。



## 【実証Ⅱ】 45 分間の学級活動

### (1) 検証学級と時期及び題材

第2学年1組 令和元年11月中旬 「けがのない生活」

### (2) 指導のねらい

- ①本学級の1学期と2学期のけがの様子を伝え、前回約束した決まりを再確認する。
- ②けがをしないためには、学校生活で起こりうる危険を予測し、どのように行動すればよいか考えることが大切であることを理解する。

### (3) 指導の実際

〈導入段階〉

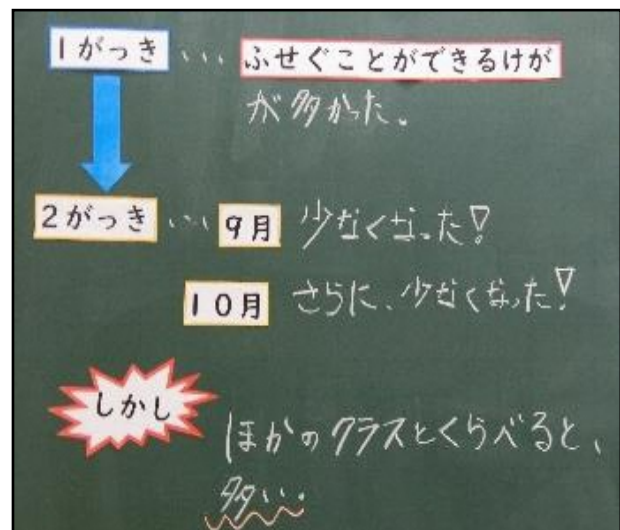
1学期と2学期の本学級のけがの様子を比較し、本学級においては良い結果が出ているが他学級と比べるとまだ多く、もっとけがについて意識して、もっとけがをしないで過ごすことができるようにすることが必要であることに気づかせる。

最初に、9月上旬の指導で1学期の本学級のけがはどうか覚えているかと質問した。子どもたちは「けがが多かった!」「廊下を走るけがが多かった!」「人にぶつかるけがが多かった!」「防ぐことができるけがが多かった!」等、前回の指導内容を多くの児童が発言した。そして、実証Ⅰで確認した3つの約束をホワイトボードに提示していき、再度子どもたちと一緒に確認した。

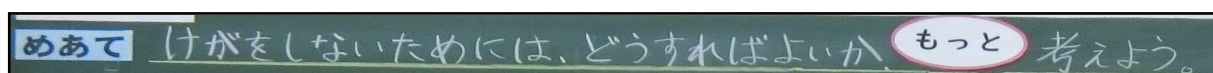
次に、「3つの約束をみなさんとして、しばらく経ちましたが、2年1組のけがの様子はどう変わったのでしょうか…」と言って、9、10月の防ぐことができるけがで来室した児童の集計結果を提示し、良い結果になっていることを賞賛した。子どもは、「すごいやん!」「最近、保健室に行っていないもんなー!」等喜ぶ声が聞かれた。

その後、**しかし**カードを見せ、他学級と比べると多いことを伝えると、「えー、そんなあ!」「まだ多いと?」等残念に思う声が聞かれた(図19)。

そして、「そこで今日は、みなさんがもっとけがについて意識して、もっとけがをしないで過ごすことができるように、一緒に考えていきましょう!」と言って、めあてを確認した(図20)。



【図19 1学期と2学期のけがの様子の比較】



【図20 本時のめあて】



〈展開段階〉

学校生活でよくある2つのけがの危険場面絵を使用し、危険予測及び回避について考える。

1. 廊下での危険な場面についての話し合い活動

①危険な場面を考える活動

図21が掲載された学習プリントに危険だと思うところに○を書かせた後、数人に前に出てきてもらい、理由も含めて発表させた(図22)。

その際、発表者以外の子どもへは、自分とは違う意見が出た際は、赤鉛筆で○を付け加えるよう指示し、予測場面の広がりをもたせた。



【図21 廊下での危険場面絵】

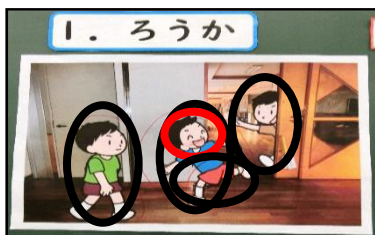
T: 危険だと思うところに○を書いてください。  
C: (青い服の子に○を書く)  
T: どうしてここが危険だと思ったの?  
C: 廊下を走っていて、緑の服の子にぶつかりそうだからです。  
T: 確かにそうですね。そのまま走ると、絶対ぶつかるよね。



【図22 ○を書いたところについて子どもが説明する様子】

T: 危険だと思うところに○を書いてください。  
C: (茶色の服の子に○を書く)  
T: どうしてここが危険だと思ったの?  
C: この子も走っているし、ドアの近くに手があるから、もしドアが閉まったら、挟まるかもしれないからです。  
T: よく考えましたね。先生も気がつきませんでした。確かに、ドアに手を挟んでしまって、保健室に来る人もとても多いです。

図23は○が子どもの発表で出た意見で、○が養護教諭が補足説明したものである。よそ見をしていることの危険については発表では出なかったため、一緒に確認をした。



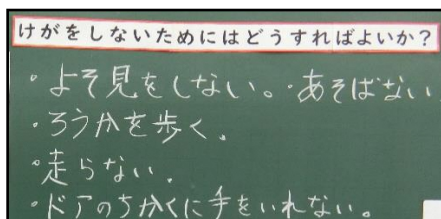
【図23 最終的な板書】

T: 青い服の子が走っているから危険という意見が出ましたが、走っているだけではなくて、ここも危険だと思わない?  
(○を書く)  
C: ああ! よそ見してる!  
C: 私もそこに○をつけたよ!  
T: よそ見をして周りを見ていないのも危険だよね。

②けがをしないための方法を考える活動

自分の学習プリントに、けがをしないためにはどうすればよいかを書かせ、数人に発表させた。

その際、発表者以外の子どもへは、自分とは違う意見が出た際は、赤鉛筆で新しい考えを付け加えるよう指示し、回避方法の広がりをもたせた。



【図24 発表で出た意見】

発表では図24のように、「よそ見をしないで廊下を歩けば良い。」「走らないようにする。」「ドアの近くに手を入れなければ良い。」「廊下で遊ばないようにする」等、3つの約束の内容も取り入れながら、危険回避のための行動を発表することができた。

## 2. 掃除での危険な場面についての話し合い活動

廊下の場面で行ったことと同様に、場面を変え、掃除の場面についても考えさせた（図 25）。

### ①危険な場面を考える活動

T: 危険だと思うところに○を書いてください。  
 C: (青い服の子に○を書く)  
 T: どうしてここが危険だと思ったの?  
 C: ほうきを振り回して、ピンクの服の子に当たりそうだからです。  
 T: そうだね。ほうきって振り回して使う物?  
 C: 違う! だめ!  
 T: そうだね。ふざけて間違っただけの使い方をしてると危険ですよ。



【図 25 掃除での危険場面絵】

発表では前を見ずにぞうきんをかけていることの危険については出なかったため、養護教諭が補足説明し、一緒に確認をした（図 26）。



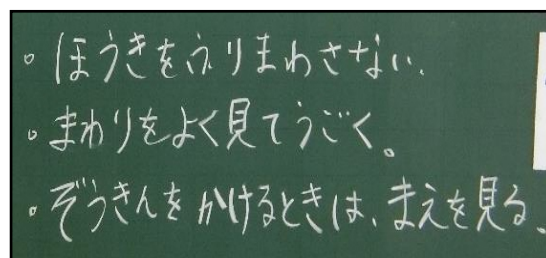
【図 26 最終的な板書】

T: (○を書く) ぞうきんをかけている子はどこを見てる?  
 C: 下を見てる!  
 T: 下を見たままだとどうなる?  
 C: 緑の服の子にぶつかる! 棚とか壁にぶつかる!  
 T: そうだね。このまま下ばかり見ていると、人や物にぶつかるから危険だよ。

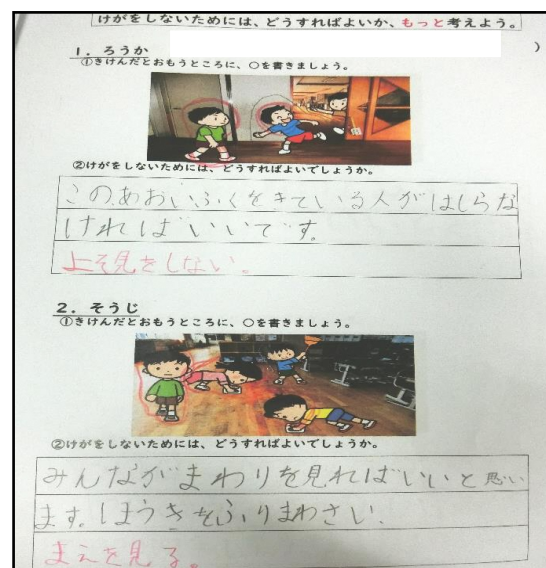
### ②けがをしないための方法を考える活動

発表では図 27 のように、「ほうきを振り回して遊ばないようにする」「周りをよく見て動けば良い。」「ぞうきんをかけるときは下だけじゃなくて前も見ろ」等、危険回避のための行動を発表することができた。

これらのように、学校生活でよくある2つのけがの危険場面絵をとりあげ、場面絵を用いて印をつけさせる学習プリントを使用したことは、子どもたちが、その危険性や原因、回避法を考えることにつながったと考える。また、図 28 のように、養護教諭による補足説明をしたことで、自分が発見できていなかった危険な箇所や、けがをしないための方法を目立たせることができ、より危険予測及び回避の幅が広がったのではないかと考える。



【図 27 発表で出た意見】



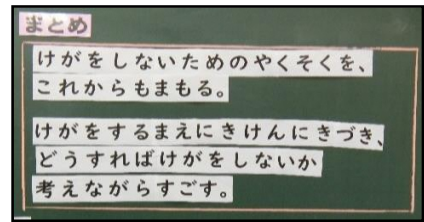
【図 28 実際の学習プリント】



〈終末段階〉

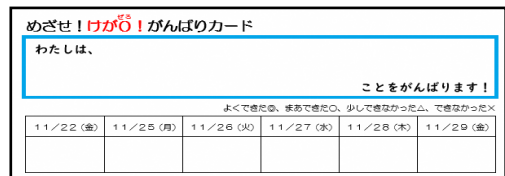
まとめを確認し、防ぐことができるけがをしないよう自分が頑張ることを「がんばりカード」に書き、一人一人が意識して過ごせるようにする。

「けがをしないためのやくそくを、これからもまもる。」  
 「けがをするまえにきけんにきづき、どうすればけがをしないか考えながらすごす。」と、まとめを確認し(図 29)、その後学校生活で意識して過ごすことができるよう、学習後の1週間がんばりカードの取り組みを行うことを提案した(図 30)。



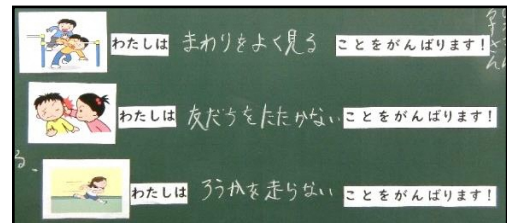
【図 29 まとめ】

がんばりカードは防ぐことができるけがをしないように、これからがんばることを1つ子どもに決めさせ、帰りの会の時に1日を振り返り、頑張ることができたか自分で評価をするものである。



【図 30 がんばりカード】

頑張ることを書かせる前には、ただ「けがをしないように気をつける」のような曖昧な言葉ではなく、どんなことを頑張るのか詳しく書くよう助言し、図 31 のように具体例を提示したことで、学級全員が自分の頑張ることを自分で考えて、書くことができた。

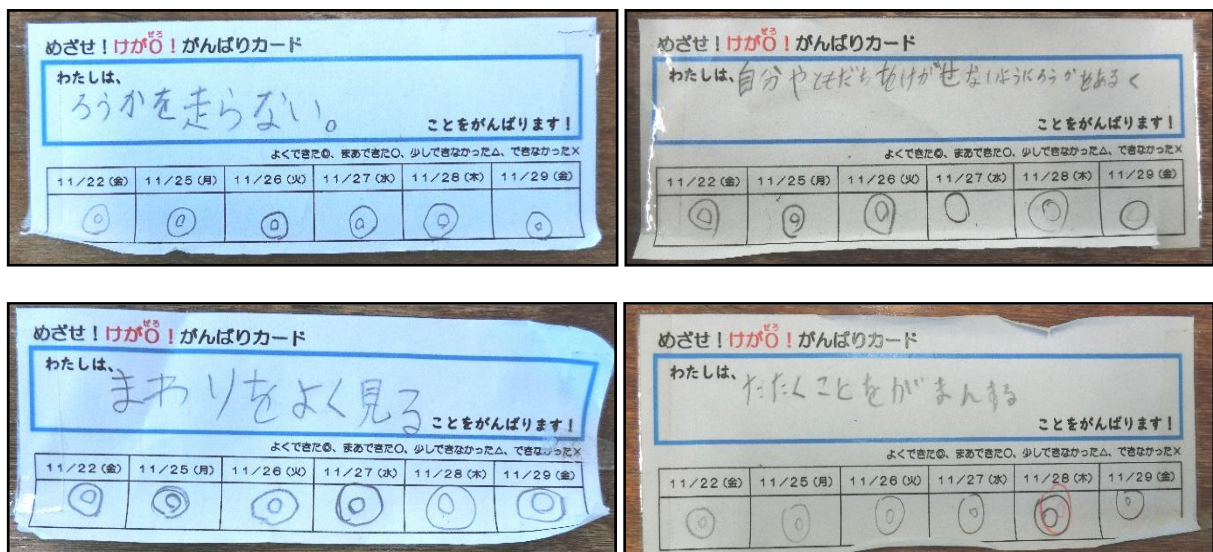


【図 31 具体例の提示】

記入後は、時間の許す限り、自分の書いた頑張ることを「宣言」「誓い」という意味で発表させ、もしできていない時があれば教えてあげてほしいこと、また「頑張ってるね」の気持ちを込めて、発表者に拍手をするよう指示した。このことは、子ども同士のさらなる意識付けに繋がると考える。

1 週間の取組

がんばりカードの取組により、けがの防止にむけて、めあてをもって取り組むことができた(図 32)。



【図 32 子どもが書いたがんばりカードと取り組みの評価】



## (2) 実践事例

〈事例の概要〉

4年生女子A

「登校中、一緒に登校していた友達が走ったため、追いつこうと思い自分（A）も走ったら、こけてしまい、足や手をすりむいてしまった。」

〈個別指導に至った理由〉

- ①通学路は走ってはいけないという決まりがあること。
- ②「だって友達が走ったから・・・」と自身の行動よりも、友達だけに原因があるような発言が見られたこと。

〈個別指導の実際〉

A児にまず、自分のけがを振り返らせ、その後以下のように対話をして指導を行った。

指導過程	指導記録
導入	A：だって友達が走ったから、私も走ったの。 養護教諭（以下「養」）：今日のけがは、友達だけじゃなくて、色々な原因があると思うよ。一緒にその原因をはっきりさせよう。そして、どうすれば良かったか考えようね。
展開	養：まず、自分の行動を振り返ろう。この中で自分がどれに当てはまると思う？ A：走ってはいけないところで走った。 養：そうだね。通学路は走ってはいけないよね。登校班の集まりで先生から指導される時、通学路は歩きましょうっていつも言われているよね。 A：うん。言われたことあるし分かってる。 養：次に、周りの環境を振り返ろう。この中にある？ A：走ってはいけないところだった。あと、周りも走っていたのも悪かったと思う。 養：そうだね。周りも走っていたのはよくないよね。でも、周りが走ったからって、自分も走って良いの？ A：良くない。走ったらいけないって分かってたのに走った自分も悪い。つられて走らずに、注意すれば良かったかもしれない。 養：そうだね。じゃあ、このけがは防ぐことができるけがだと思う？ A：防ぐことができるけがだと思う。 養：そうだね。先生もそう思うよ。じゃあ、どうすれば防ぐことができるかな？ A：歩いてと友達に言えば良かった。あと、自分も歩けば良かった。 養：そうだね。よく考えることができたね。
まとめ	養：今、Aさんはけがの原因をはっきりさせることができたし、どうすれば防ぐことができたのかも自分で考えることができたよ。これからたくさん危険な場面に出会うことがあると思うけど、今先生としてみたみたいに、けがをしないためにはどうすれば良いか考えて行動して行ってね。 A：はい。これから気をつけるよ。

## じぶんのけがをふりかえろう

(4)ねん(3)くみ なまえ( )

どうしてけがをしたのでしょうか？

じぶんのこうどう  
はしってはいけないところではしった・まわりをよくみていなかった・ふざけていた  
そのた( )


まわりのかんきょう  
はしってはいけないところだった・ひとやものがたくさんあった・まわりもふざけていた  
そのた( まわりもはしっていた )

ふせぐことができるけがだとおもいますか？(不注意やふざけておきたけが)  
(はい) ・ しかたがない ・ わからない

↓

どうすれば、けがをふせぐことができたのでしょうか？

あるいてという  
じぶんもあるけばよかった



【図 33 4年女子Aの実際の振り返りシートの記入】

### (3) 実践の事例一覧

番号	学年	場所	何をしていた どうなった	自分の行動	周りの環境	本人の意識		防ぐためには	評価		その他
						防ぐことが できた	しかたが ない		原因の 明確化	回避の 方法	
1	3	体育館前	走っていて、段差に気づかずにつまづき、転んで足を打撲した。	下を見ていなかった。	段差があった。	○		下を見ていればよかった。	○	○	冷やしながらだったため、養護教諭が記入した。
2	4	通学路	登校中、友達が走ったため自分も走ったら、転んで足や手をすりむいた。	走ってはいけないところで走った。	走ってはいけないところだった。周りも走っていた。	○		歩いてと言う。自分も歩けばよかった。	○	○	本人は「友達が走ったから」と友達だけに原因がある発言が見られたため、原因を整理して指導した。
3	1	教室	走って遊んでいたら、転んで自分の机にあごをぶつけた。	走ってはいけないところで走った。	走ってはいけないところだった。	○		走らないようにする。	○	○	ガーゼで保護しながらだったため、養護教諭が記入した。
4	2	運動場	のぼりぼうの高いところから飛び降りて、転んで足をすりむいた。	のぼりぼうから飛び降りた。	高いところだった。	○		降り方を考える。高いところから飛び降りない。	○	○	本人は「いつも高いところから飛び降りていて、今までけがをしたことがなかったから…」と話した。大きいけがにつながることもあるので、これからは気をつけるよう指導した。
5	3	ウッドデッキ	走っていて、人にぶつかってしまい、転んで足をすりむいた。	走ってはいけないところで走った。周りをよく見ていなかった。	走ってはいけないところだった。人や物がたくさんあった。	○		周りを見たり、走らなかつたら良いと思う。	○	○	原因が多数あったが、状況を整理したことで、防ぐ方法を自分で考え導くことができた。



ウ. 啓発活動（校内環境や通信、保健委員会を通して、けがの防止の大切さを周知する活動）

（１）掲示物やほけんだよりについて

〈9月の掲示物（図34）とほけんだより（図35）〉

経緯	本校のけがの様子を分かりやすく提示することで、まずは、けがについて興味を持ってもらおうと考えた。その中で見えてきた課題を改善するためには、3つの約束を守ってほしいことを全校に周知したいと思った。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の1学期のけがの様子を数値化して提示することで、何が課題であるかに気づく。</li> <li>課題（防ぐことができるけがが多い）を改善するためには、3つの約束を守ることが必要であることが分かる。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題についての内容だけではなく、まずはけがについての興味関心を得るべく、けがの人数や場所をランキングにして提示した。また、低学年でもイメージしやすいように、実際の校舎の写真を用いた。</li> <li>「防ぐことができるけが」と「3つの約束」を印象付けるため、特に大きく大きく強調させた。</li> </ul>
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>ランキングの表や写真を指差しながら、「私も運動場でけがしたことある。」「教室でけがする人ってこんなに多いんだね、意外だな。」等、自分のけがを振り返ったり、本校のけがの様子に感心を持ったりするような発言が見られた。</li> <li>「けがって防ぐことができるんだ。」とけがの概念が広がったような発言が見られた。</li> <li>3つの約束を、友達と声をそろえて読む姿が多く見られた。</li> </ul>

**1学期のけがのようす** 身体は自分で守るのです！

4月	87人	1学期にけがで保健室に来た人は、602人でした。
5月	198人	5月は運動会の時期だったので、けがをした人が多かったです。
6月	161人	
7月	156人	

**けがの場所ランキング**

1位	運動場 (210人)
2位	教室 (166人)
3位	通学路 (37人)

**けがの理由**

20歳前	53%
不注意や不注意によるけが	47%

**そのけが、ふせげたかも？**

- ・ろうかや教室を走ってけが。
- ・よで見もしてい、人にぶつかた。
- ・ふざけていた。友達にたたかれた。

**ふせぐことができるけが**

～まもってほしい、三つのこと～

- 一、走ってはいけないところを走らない。
- 二、まわりをよく見て行動する。
- 三、ふざけたり、わざと友達をたたいたりしない。

【図34 9月の掲示物】

**~1学期のけがのようす~**

月ごとのけがの人数

4月	87人
5月	198人
6月	161人
7月	156人

1学期にけがで保健室に来た人は、602人でした。昨年より少し少ないです！  
5月は運動会の時期だったので練習によりけがをした人が多かったです。

**けがをした場所ランキング**

1位	うんどうじょう	210人
2位	きょうしつ	166人
3位	つうがくろ	37人

通学路でのけがは、「走ってこけた」という理由が多かったです。荷物を持っていると、手をつくことがむずかしく落ないので、通学路では走らないように気をつけましょう。

**そのけが、ふせげたかも！？**

けがの理由

不注意や不注意によるけが	47%
それ以外	53%

1学期のけがの理由の半分近くが、不注意や不注意によるけがでした。つまり「ふせぐことができるけが」です！  
下のことに気をつけて、2学期は少しでもふせぐことができるけがを減らしていきます。

- ☆走ってはいけないところを走らない。
- ☆周りをよく見て行動する。
- ☆ふざけたり、わざと友達をたたいたりしない。

【図35 9月のほけんだより】

〈10月の掲示物（図36）とほけんだより（図37）〉

経緯	けがの来室者の中には、遊具を正しく使えていなかったためにけがをした子どもも多くおり、遊具によっては高低差もあるため大きなけがに繋がった事例もあった。遊具を正しい使い方を伝えたいとともに、遊具を正しく使うことでけがを防ぐことにも繋がることを分かってほしいと思った。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具の正しい使い方を知る。</li> <li>・正しく使うことでけがを防ぐことができることが分かる。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしやすいように実際の遊具の写真を用いて分かりやすく提示した。</li> <li>・保健委員会の取り組みと並行してだが、遊具の正しい使い方については、保健委員会の子どもに考えてもらい、作成させた。</li> </ul>
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すべりだいで前の人がすべり終わってからすべらないとダメなんだ。」と改めて正しい遊具の使い方を知る子どもが見られた。</li> <li>・「のぼりぼうはいつも高いところから飛び降りるよ。けがは今までしたことはないけどこれから気を付けよう。」とこれまでの自分の遊具の使い方を振り返り、これから気を付けようとする発言が見られた。</li> <li>・保健委員会の子どもからは、「自分で考えて書いたことで、改めて正しい遊具の使い方を考えることができ、自分でもこれからけがをしないために、気を付けていこうと思った。」という感想を得られた。</li> </ul>



【図36 10月の掲示物】

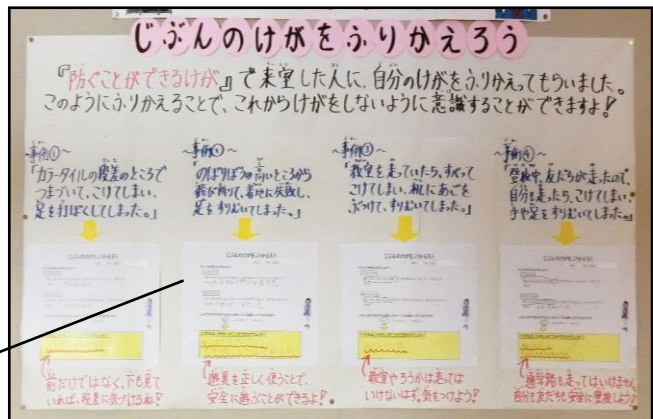
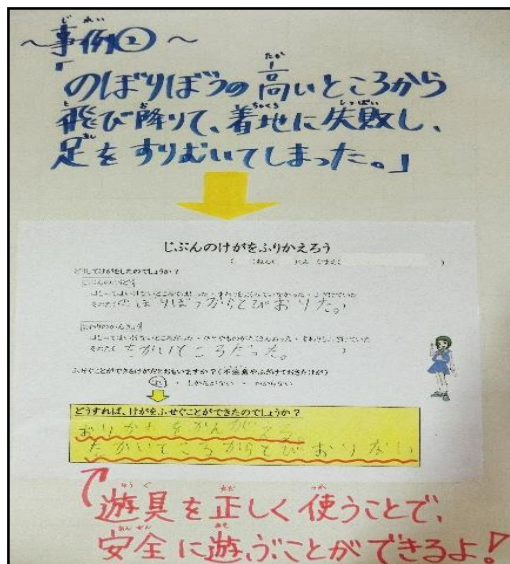


【図37 10月のほけんだより】

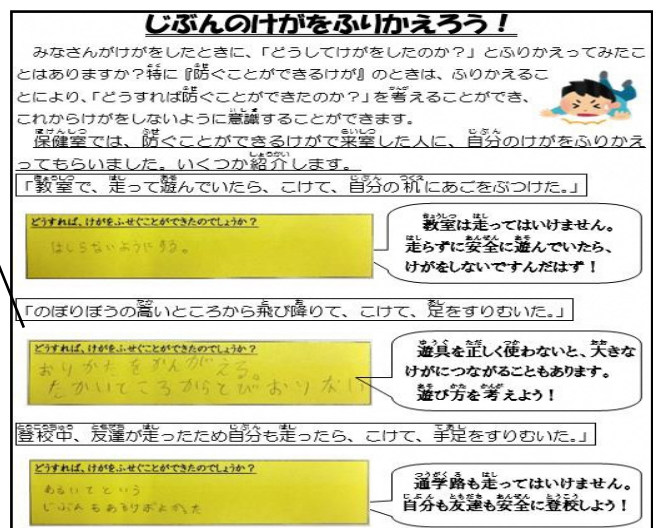


〈11月の掲示物（図38）とほけんだより（図39）〉

<p>経緯</p>	<p>振り返りシートは保健室内で個別に行っている取り組みのため、存在を知っている子どもは少ない。存在を全校に知らせ、これからけがをしたときは、振り返りシートのようにけがを振り返ることが大切であることを分かってほしいと思った。</p>
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導で行った実際の振り返りシートを掲示し、振り返りシートの存在を全校に知らせるとともに、自分のけがを振り返ることの大切さが分かる。</li> <li>また、振り返ることで、これからけがをしないように意識することができる。</li> </ul>
<p>工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導を行っていない児童も、振り返りシートの存在が知ることができるように、実際の振り返りシートを拡大して、掲示した。</li> </ul>
<p>子どもの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こんなの書いてたんだ。」と振り返りシートの存在を知り、関心を持つ様子が見られた。</li> <li>「似たようなけがをしたことがある。」「確かにこのけがは防げるよね。」「自分も気を付けよう。」等実際の事例と自分のけがの経験を重ね、振り返る様子が見られた。</li> </ul>



【図38 11月掲示物】



【図39 11月ほけんだより】

## (2) 保健委員会の取組について

〈1年生へ廊下歩行についてのポスター発表〉 朝の会の時間に実施

経緯	入学して間もない1年生は、「廊下は走ってはいけない、歩くものだ」という認識をあまり持っていないからか、廊下を走る姿が特に目立った。まずは認識を持つことと、高学年のお兄さんお姉さんから教えてもらうことで、さらなる実践意欲を向上させたいと思った。
ねらい	・「廊下は歩く」という認識を持たせ、これからの学校生活で意識することができる。
工夫点	・1年生が楽しみながら集中して発表を聞くことができるよう、クイズ形式での発表とした。 ・廊下を走ると、こけたり、人とぶつかったりしてけがをしてしまうこと等、なぜ廊下を走ってはいけないのかも併せて盛り込んだ。
子どもの反応	・クイズ形式にしたことで、全員参加型となり、積極的に保健委員会の発表を聞くことができていた。 ・「廊下を走ってけがしたことあるよ。」「廊下は走っちゃダメなことは知ってるけど、つい走ってしまう。気を付けます。」等、自分のこれまでの廊下歩行について振り返り、これから気を付けようとする発言が見られた。 ・保健委員会の子どもからは「1年生に教えることができて良かった。これからも、走っている子を見つけたら声をかけていきたいと思う。」と、発表時だけではなく、今後も高学年として廊下歩行について積極的に取り組んでいこうとする発言が見られた。

〈けが予防についての全校放送〉 給食時間に実施

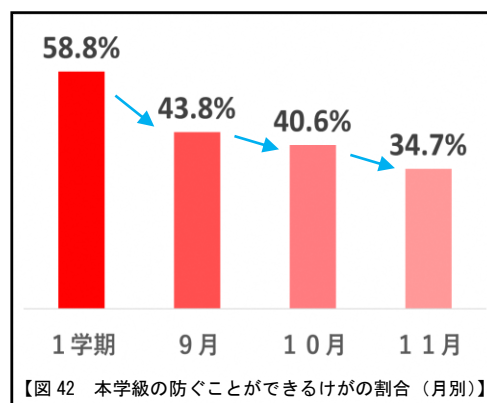
<p>経緯</p>	<p>掲示物やほけんだよりをあまり見ない子どももいる。特に、低学年は文字を読んで理解することの難しさもある。放送し、耳から情報を得ることで、誰でも分かることができるのではないかと思った。</p> <p>また、1回きりではなく、週1回のペースを保ち、継続的に放送することで、けがについての興味を引き立たせることができると考えた。</p>																																																																	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校のけがの様子について知り、興味関心を持つことができる。</li> <li>けがを防ぐためにはどのような行動をとれば良いか知ることができる。</li> </ul>																																																																	
<p>工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の1週間のけがの様子について、図40のように継続的に（2学期間に週に1回、計15回）放送した。</li> <li>保健委員会の子どもに集計させ、放送内容を一緒に考えた。</li> <li>本校ではどのようなけがが多く、それを改善させるためには、どのような行動をとればいいのか等、具体的な内容を放送した。</li> </ul> <div data-bbox="868 618 1394 1008" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>毎週、月曜日（月曜が祝日の日は、火曜日）の給食時間に</b></p> <p style="font-size: small;">・先週の保健室でのけがやその予防について放送する。 ・曜日メンバーごとでローテーションする。 ・放送当日の午休みに、放送担当の人は保健室に集まり、確認する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th colspan="2">～放送日～</th> <th>9月</th> <th>放送担当</th> <th>10月</th> <th>放送担当</th> <th>11月</th> <th>放送担当</th> <th>12月</th> <th>放送担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9日(月)</td> <td>月曜メンバー</td> <td>7日(月)</td> <td>金曜メンバー</td> <td>5日(火)</td> <td>木曜メンバー</td> <td>2日(月)</td> <td>水曜メンバー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17日(火)</td> <td>火曜メンバー</td> <td>15日(火)</td> <td>月曜メンバー</td> <td>12日(火)</td> <td>金曜メンバー</td> <td>9日(月)</td> <td>x</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>24日(火)</td> <td>水曜メンバー</td> <td>21日(月)</td> <td>火曜メンバー</td> <td>18日(月)</td> <td>月曜メンバー</td> <td>16日(月)</td> <td>木曜メンバー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>30日(月)</td> <td>木曜メンバー</td> <td>28日(月)</td> <td>水曜メンバー</td> <td>25日(月)</td> <td>火曜メンバー</td> <td>23日(月)</td> <td>金曜メンバー</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th colspan="2">～曜日メンバーの輪廻～</th> <th>9月9日、10月15日、10月18日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月曜メンバー</td> <td></td> <td>9月17日、10月21日、11月25日</td> </tr> <tr> <td>火曜メンバー</td> <td></td> <td>9月24日、10月28日、12月2日</td> </tr> <tr> <td>水曜メンバー</td> <td></td> <td>9月30日、11月5日、12月16日</td> </tr> <tr> <td>木曜メンバー</td> <td></td> <td>10月7日、11月12日、12月23日</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: center;"><b>【図40 放送担当割】</b></p> <div data-bbox="400 1099 1385 1487" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>保健委員会からのお知らせです。先週の保健室の様子についてお伝えします。先週けがで保健室にきた人は37人で、走ってはいけない場所で走ってしまい、こけたり、人とぶつかったりしてけがをしてしまう人が特に多かったです。みなさんは走ってはいけない場所を知っていますか？教室や廊下、通学路、ウッドデッキなどは、走ってはいけません。運動場と違って、狭くて、曲がり角などもあり、走ると危険だからです。『走ってはいけない場所で走らない』という約束を一人一人が意識して守ることで、けがを減らせることができますよ。けがをして痛い思いをする人が少しでも減るといいですね。これで保健委員会からのお知らせを終わります。</p> <p style="text-align: center;"><b>【図41 保健委員会の子どもが放送した原稿】</b></p> </div>	～放送日～		9月	放送担当	10月	放送担当	11月	放送担当	12月	放送担当	9日(月)	月曜メンバー	7日(月)	金曜メンバー	5日(火)	木曜メンバー	2日(月)	水曜メンバー			17日(火)	火曜メンバー	15日(火)	月曜メンバー	12日(火)	金曜メンバー	9日(月)	x			24日(火)	水曜メンバー	21日(月)	火曜メンバー	18日(月)	月曜メンバー	16日(月)	木曜メンバー			30日(月)	木曜メンバー	28日(月)	水曜メンバー	25日(月)	火曜メンバー	23日(月)	金曜メンバー			～曜日メンバーの輪廻～		9月9日、10月15日、10月18日	月曜メンバー		9月17日、10月21日、11月25日	火曜メンバー		9月24日、10月28日、12月2日	水曜メンバー		9月30日、11月5日、12月16日	木曜メンバー		10月7日、11月12日、12月23日
～放送日～		9月	放送担当	10月	放送担当	11月	放送担当	12月	放送担当																																																									
9日(月)	月曜メンバー	7日(月)	金曜メンバー	5日(火)	木曜メンバー	2日(月)	水曜メンバー																																																											
17日(火)	火曜メンバー	15日(火)	月曜メンバー	12日(火)	金曜メンバー	9日(月)	x																																																											
24日(火)	水曜メンバー	21日(月)	火曜メンバー	18日(月)	月曜メンバー	16日(月)	木曜メンバー																																																											
30日(月)	木曜メンバー	28日(月)	水曜メンバー	25日(月)	火曜メンバー	23日(月)	金曜メンバー																																																											
～曜日メンバーの輪廻～		9月9日、10月15日、10月18日																																																																
月曜メンバー		9月17日、10月21日、11月25日																																																																
火曜メンバー		9月24日、10月28日、12月2日																																																																
水曜メンバー		9月30日、11月5日、12月16日																																																																
木曜メンバー		10月7日、11月12日、12月23日																																																																
<p>子どもの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全校のけがの様子は今まで気にしたことなかったけど、気になるようになった。」「自分もこのけがの人数の1人なんだよな。気をつけないと。」等、本校のけがについての興味関心を持つ発言や、自分のけがを振り返る発言が見られた。</li> <li>保健委員会の子どもからは、「1週間だけでもけがはこんなに多いんだ。どう防げばいいのか考えることができて良かった。自分も気をつけないと。」と、自らもけが予防について取り組もうとする前向きな発言が見られた。</li> </ul>																																																																	

## 6 全体考察

### (1) 検証学級の子どもの変容

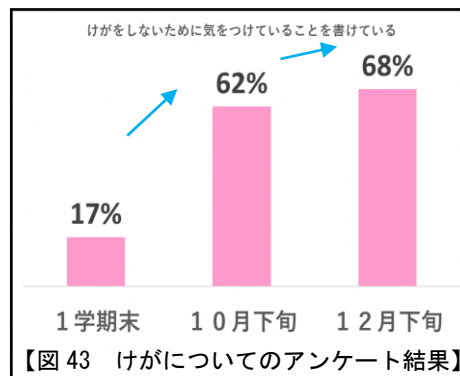
#### ① 防ぐことができるけがの割合から

防ぐことができるけがが1学期は突出して多かった本学級であったが、9月に大きく減少した。その後は少しずつ減少していき、11月には34.7%と同時期の全校平均に近い数値となった(図42)。これは、2学期が始まってすぐに実証Ⅰで子どもと約束を確認したことや、実証Ⅱでけがの危険予測及び回避についての指導、またがんばりカードの取り組みを行ったことによって、子どもたちが防ぐことができるけがをしないように意識し行動に移したためだと考える。



#### ② アンケート結果から

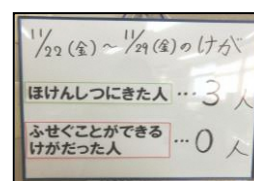
図43は本学級(29名)において「けがをしないために気をつけていることはあるか?」という問いのアンケートを1学期末(指導前)、10月下旬(実証Ⅰ後)、12月上旬(実証Ⅱ後)の計3回実施した際の結果である。1学期末は書くことができた子どもは17%であったが、10月下旬は62%、12月上旬は68%とけがをしないために気をつけていることがある子どもが増えた。これは、実証Ⅰ、Ⅱにおいて防ぐことができるけがに特化した指導を行い、子どもたちに意識付けさせることができたためだと考える。また結果的に、



(1) ①で述べた本学級における防ぐことができたけがの割合の減少にも繋がっていると考える。

#### ③ がんばりカード取り組み期間中の来室状況から

図44は、実証Ⅱの事後活動として行ったがんばりカードの取り組み期間中(1週間)の本学級のけがの来室状況の結果である。けがの来室人数は3人であったが、そのうち防ぐことができるけがだった子どもが0人で、この期間中は防ぐことができるけがの割合は0%となり、自分で決めた頑張ることを意識して生活することができたと考え。



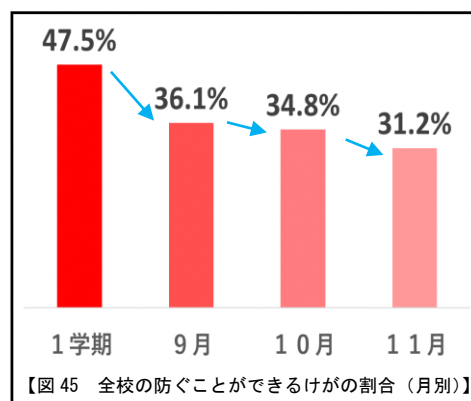
【図44 がんばりカード期間中の本学級のけがの来室状況】

この素晴らしい結果については、本学級へ養護教諭が図44を見せて報告し、本校校長から表彰状を送り褒め称え、これからも継続して意識して行ってほしいことを伝えた。このことは、この取り組みが終わってからも子どもたちが意識して過ごしていくことに繋がるのではないかと考える。

## (2) 全校の子どもの変容

### ① 防ぐことができるけがの割合から

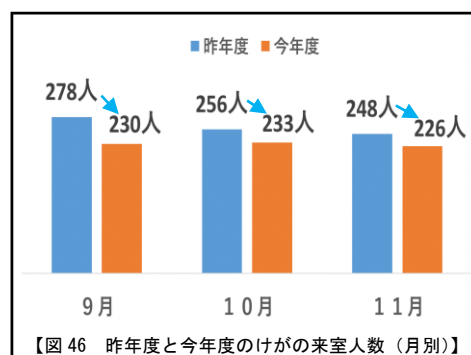
全校においても防ぐことができるけがの割合が1学期は半数近くと多かったが、9月に大きく減少し、その後も少しずつ減少した(図45)。これは、全校へ向けて掲示物やほけんだよりでけがの危険予測及び回避について啓発したことや、保健委員会による継続的な啓発活動、来室時の個別指導が結びついたためだと考える。また、防ぐことができるけがの割合が突出して多かった本学級において指導を行ったことで、本学級の割合が全校平均値に近づき、差が少なくなったことも要因の1つとして考えられる。



【図45 全校の防ぐことができるけがの割合(月別)】

### ④ 全校の来室状況から

図46は昨年度と今年度の2学期のけがの来室人数を比較したものである。どの月も昨年度よりも減少していることが分かる。これは、(2)①で述べた、全校的に防ぐことができるけがの割合が減少したことが、来室人数の減少にも繋がったためと考える。



【図46 昨年度と今年度のけがの来室人数(月別)】

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- 「防ぐことができるけが」に特化した、集団指導と個別指導を通して、原因分析及び望ましい行動を考えさせたことは、けがの危険予測及び回避ができる子どもを育む上で、有効であった。
- 全校児童に対する啓発活動を行ったことで、結果的に「防ぐことができるけが」が減り、けがの来室数を減らすことができた。

### (2) 課題

- 検証学級への指導により、けがをしないために気をつけていることがある子どもが増加したが、まだ22%は意識できておらず、防ぐことができるけがの割合も全校平均を上回っているため、学級全員が意識するための手立てを明らかにする必要がある。
- 来室時の個別指導においては、授業時間帯での来室や養護教諭が他業務に追われている時等、時間を確保するのが難しいことがあったため、改善策を明らかにする必要がある。

### 〈参考文献〉

- ・文部科学省 学校安全資料『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』
- ・岡山市小学校保健部会北区1共同研究 『健康で安全な生活をする意識を高め、自ら考え正しく判断して行動できる児童の育成—生活安全指導を通して—』
- ・原 洋子 『小学生における危険予測能力・危険回避能力の育成に関する研究』